自然言語処理 Vol.2 No.4 編集後記

私は本誌については特に言うべきことを持ち合わせていないので, ここでは, 今後担当する予定のニュースレターに関して, それから, 現在本学会にはない研究会に関して, 個人的な意見を述べてみたいと思う.

まず, ニュースレターであるが, これは今のところ, 九工大の中村順一先生らによって, 不定期的に電子メールあるいは郵送で会員に届けられている. 内容は, 主に学会からの連絡事項で, 全国大会のお知らせや総会の報告などである. 最近では, 日経新聞の CD-ROM の利用についてのお知らせがあり, そういう話があるのか, と感心させられたりしている. しかしながら, もう少しうまいニュースレターの使い方はないものか, と考えてしまう. つまり, 会員が, 自分は言語処理学会の会員でよかった, 得した, と思えるような, 効率良く情報交換やディスカッションを行えるような場を提供することである.

そこで一つ提案がある. 研究者や技術者がやらなければならないと思いつつ, めんどうくさいと思っていることの一つに, 関連研究のサーベイがある. 学生は研究室での輪講で論文の紹介をすることが多いだろうし, 社会人は自分の仕事のプレゼンテーションのときに関連研究・技術をレビューすることがあるだろう. このような資料を適当に短くまとめてニュースレターに載せるというのはどうだろう. 他学会でも, 学会誌に文献紹介や書評を載せているが, それほど文章に気を使う必要はないのだから, もっと, ラフで, 主観を多く含んだ文でよいだろう (たとえば, これこれの論文はどこそこでは高い評価を受けているが, 自分はまったく面白いとは思わない, なぜなら, , , などなど). これは義務ではなくボランティアで行われるものだから, 特定の人がいつも仕方なく投稿している, という状況ではいけない (言いだしっぺの自分がその役をやるのではないかと恐れて言っている). その利益を享受する人は自らも貢献する, という give and take の精神でいきたいものである.

それから, あと考えられる内容に, 研究会や国際会議などのイベント情報がある. 自然言語関連のイベントの一覧表があるといいな, と思っている人は少なくないであろう (海外のイベントに関しては, WWW のページが存在する. http://xxx.lanl.gov/cmp-lg/を参照のこと). イベントが開催されるまでは, 開催場所や日程, プログラムなどが有用な情報であるが, 開催された後は, どんな話があったか, 面白かった発表は何か, などのレポートがほしいところであろう. これも, 他学会では, 会議報告として学会誌に載せているが, 掲載までの期間が長くなることが多く, 速報性を欠いていることが多く見受けられる. これもやはり, それほど丁寧に書く必要はないのだから, 軽い気持ちで書いて投稿すればよいと思う (これも, どうせ, まずお前がやってみろと言われるのがオチなので, 近ぢか書いてみようと思う). とにかく, 試験的に色々やってみたいと思いますので, 会員の皆様のご協力を切に願っております.

次に, 研究会に関して, 少し考えを述べたいと思う. 最近, この分野の研究会は盛り上がりに欠けているような気がしている. 以前に, 誰か偉い先生がどこかの学会誌の巻頭言で, 研究会

は数が多いが, 同じメンバーが同じようなことをやっていて, 金太郎飴状態である, ということを書いていらしたが, まったくその通りだと思う. いっそのこと, 言語処理学会の下に統合した研究会を作ってしまって, 他のはなくしてしまっても良いのではないか, とも思ってしまう. しかし, 各研究会が自分の持ち味を生かして, うまく差別化できれば, その方が良いという気もする. ここで, 手前味噌になるが, 私がその運営に関与している研究会, 日本ソフトウェア科学会の「言語と知能」研究会 (主査は, 電総研の橋田浩一氏) のことを述べてみたい. この研究会は年に一回, 特定のテーマでワークショップを行っている. ありきたりではない面白いテーマ (で, さらに自分たちにとって有益であるもの) を選ぼうと努力している. しかし, この研究会は, 学会に属していることによる恩恵が特に何もないことに気がついたので, 今年度をもって解散することになった. と言っても, われわれが活動をやめるわけではなく,「学会の研究会としての活動」をやめるだけである. つまり, 有志一同のボランティアによって活動を続けようということである. これで,「一般」参加者のことはあまり考えずに, われわれの興味にますます特化して企画を立てることができる (実は以前からそうであったが, より大っぴらにできるということである). テーマが「一般」などということは絶対にありえない.

他の研究会ももっと自由な采配で独自の企画をどんどん出してくれば, 金太郎飴にならずにすむのに, と思う. 研究会の関係者は, そんな企画を毎回出せるわけがないとおっしゃるかも知れないが, だったら, いい企画が出るまで, 研究会をお休みにしたって構わないと思う. 特徴のない研究会を同じペースで続けるより, テーマを絞り, 頃合を見計らって不定期に開催した方が, 少なくとも参加するものにとって有益だと思うのだが, いかがであろうか (テーマが限定されない定期的な発表の場としての研究会のメリットもあるが, ここでは面白い話を聞きに来る観客の立場での利益を考えている). 先の「言語と知能」研究会の例は, 学会が不要だと言っているように聞こえるかも知れないが, 学会との結び付きが希薄ならば, 研究会は学会を離れても構わないということを言っているだけである. 学会が積極的に研究会をサポートして, かつ担当者が学会のカラーを明確に打ち出せるような企画を立てられるのならば,「学会の」研究会は非常に有意義なものになるだろう. 将来, 言語処理学会が, 融通のきかない学会を離れて活動を続ける研究会の受け皿となるのであれば, そのための雰囲気作りを今から始めるのも悪くないだろう.

以上, 好き勝手言わせていただいたが, 言語処理学会の将来を考えると, 既存の学会との差別化, つまりこの学会にしかできないこと・やっていないことを, 明確に出さない限り, 学会の存続は難しいと思うのである (それより何より, まず会費を安くして欲しいが). より意味のある学会にするためには, 会員が積極的に参加できて, ある程度ものの分かった人々が研究の進むべき方向性を明確に提示できるような場が必要だろう. そのための手段が, ニュースレターと研究会 (あと, もちろん学会誌も) なのである.

長尾　確 (Sony CSL)